

キャリアプログラム科シラバス

科目名	音楽理論(LM1)	担当教員名	小林 延江
単位時間	30(2単位)	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	楽譜に書かれた音やリズム・記号の意味について理解し、楽譜の基礎を学んでいくことで正確に楽譜を読み取る力を身につけていくことを目標とする。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているのかも紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し問題を解きながら読譜力をつけていきます。		
【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容	
1	講義	ファンデーションカリキュラムの説明・LMの説明・楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る	
2	講義	鍵盤と音名の一致・楽器ごとの音域を知る	
3	講義	音符・休符の表し方、連符	
4	講義	拍子記号・小節線について、拍子(単純拍子は詳しく、複合・混合拍子は紹介のみ)、タイ・シンコペーション	
5	講義	反復記号を学び、音源を使用して楽譜を追えるようにする	
6	講義	楽譜と音源を使用し、前半の総復習	
7	講義	前回までの確認テストと振り返り	
8	講義	メジャースケールの仕組み・#系のメジャースケールのみ	
9	講義	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする・b系のメジャースケール	
10	講義	調号と臨時記号の違い・臨時記号の効力・正しい楽譜の書き方	
11	講義	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ	
12	講義	楽譜と音源を使用し、後半の総復習	
13	講義	期末テスト前復習週、前回までの振り返り	
14	講義	期末確認テストと振り返り	
15	講義	講義内容のまとめと実践的なワークブック	
準備学習 時間外学習	教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%	
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック	
	参考書		
学生への メッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。		

キャリアプログラム科シラバス

科目名	音楽理論(LM2)		担当教員名	小林 延江
単位時間	30(2単位)	必修・選択	配当年次	(1)年次 (後)期
曜日・時限		必修	教室	
授業の到達目標	スケールの仕組みや曲の雰囲気の特徴付けるKeyについて、移調の仕方、楽譜に書かれた記号の演奏方法について、コードの概念と構造について理解することにより、楽譜をもう少し深いところまで読み取る力を身につけていくことを目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているか、どう使っていくか等紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し練習していきながら習得していく。			
【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。				
回数	授業形態	内容		
1	講義	マイナースケールの仕組み・5度圏を用いてナチュラルマイナーの説明		
2	講義	ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの説明		
3	講義	近親調・それぞれの調の関係を楽譜を用いて知る		
4	講義	五線を用いて移調を出来るようになる		
5	講義	省略記号、奏法記号、装飾記号を知る		
6	講義	楽譜と音源を用い、前半の総復習		
7	講義	前回までの確認テストと振り返り		
8	講義	コードの概念とトライアドの構造について知る		
9	講義	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させる		
10	講義	トライアドと7thコードの響きの違いを曲を用いて知る・dimコードの構造と響き		
11	講義	add9、sus4、6thコードについて知る		
12	講義	楽譜と音源を用い、後半の総復習		
13	講義	期末テスト前復習週、前回までの振り返り		
14	講義	期末確認テストと振り返り		
15	講義	講義内容のまとめと実践的なワークブック		
準備学習 時間外学習	教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%		
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック		
	参考書			
学生への メッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。			

キャリアプログラム科シラバス

科目名	イヤートレーニング(ET1)	担当教員名	小林 延江
単位時間	30(2単位)	必修・選択	配当年次
曜日・時限		教室	2年次 前期
授業の到達目標	<p>《リズム》4分の3拍子・4分の4拍子で、4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符の混ざったリズムを聴き取れるように。</p> <p>《メロディー》C～Gまで(跳躍進行あり)を正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。</p> <p>《音程》1～8度までの音程を知る。</p> <p>《コード》メジャーコードとマイナーコードを聴き分ける。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を鍛えていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力を身につけていきます。</p>		
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。		
回数	授業形態	内容	
1	講義	ファンデーション科目・ETの説明/音の歴史について、音楽について、モールス信号、効果音、周波数(教科書第1章～2章の内容)	
2	講義	4分音符4分休符導入 / リズム打ちを使つての書き取り/ 線紙を使つて音の高低判定(C～E・2度進行)	
3	講義	線紙を使つての書き取り/3線紙を使つて音の高低判定(C～E・3度の順次進行)	
4	講義	8分音符導入 / 5線を使つてC～Eまでの書き取り / 全音・半音と度数のみ	
5	講義	休符の多い書き取り問題 / 1・2・3・8度のみ	
6	講義	16分音符の導入 / 復習・暗記問題/1・2・3・8度のみ変化記号(#・b)が付いた場合	
7	講義	前回までの確認テスト振り返り	
8	講義	C～Eで跳躍進行/1～5と8度(4度、5度は#、bなし) トライトーン	
9	講義	8分休符+8分音符の導入 / C～Fまで(順次進行)/1～5と8度(4度、5度#、bあり)トライトーン	
10	講義	8分音符+16分音符リズムの導入 / C～Gまで(順次進行)/1～6と8度	
11	講義	C～Gまで(跳躍進行)/1～8度	
12	講義	1～8度 音程まとめ/Major, Minorの聞き分け/総復習	
13	講義	期末テスト前復習週、前回までの振り返り	
14	講義	期末確認テストと振り返り	
15	講義	講義内容のまとめと実践的なワークシヨック	
準備学習 時間外学習	教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%	
教材	教科書	イヤートレーニング	
	参考書		
学生への メッセージ	週1回の授業を大切に！こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。継続して授業に出席することを定着させ、正確な音感・リズム感を身につけていきましょう。		